



# 『おかき・煎餅』の製造直営販売量で日本一!

株式会社もち吉

(福岡県直方市下境) 森田 長吉 社長



苦しい時、社長を支えてきたのは「負けてたまるか」という想い。昔のエピソードの数々をユーモアたっぷりに語る森田社長。

「米よし、水よし、技もよし」のキャッチフレーズでおなじみ。直方市下境に本社を置き、全国に約220店の直営店を展開するもち吉は、『おかき・煎餅』の製造直営販売量で日本一。日本中で愛される“あられ”や“おせんべい”を、毎日全国に送り届けています。

## 転機となった

### “あられ”との出会い

いまでこそ、『おかき・煎餅』の製造直営販売量で日本一を誇る米菓製造直販会社ですが、創業当時の「もち吉」(前身・森田製菓)は、小さな町の菓子工場でした。「その頃は、焼き菓子、飴玉、和菓子などを製造し、菓子問屋や小売店に販売していましたが、まったく売れなくてね」と語る森田長吉社長。高校を卒業後、18歳の時に家業を継いだ森田社長は、大きな転機となったのが、もち米のお菓子“あられ”との出会いでした。営業で日参していた小売店の女性が、仕事熱心な森田社長の人柄に触れ、「こんなお菓子が売れているのよ」と見せてくれたのです。初めて食べたあられのおいしさに感動した森田社長は、その足で近所のあられ工場を訪ね、さっそくあられをつくる契約をしたのだとか。

これが、現在、日本中にファンを持つ米菓会社となった「もち吉」への第一歩。「思い立ったら即行動」の森田社長らしさがよく表れたエピソードです。



工場では、1日で300種類もの“あられ”や“おせんべい”を製造。工場内には、いたるところでできたての香ばしい香りが漂います。



## 商品へのこだわりと ご縁に感謝する心

”日本一“の企業になれた秘訣は、シンプルに「おいしい商品をつくること」。そんな森田社長が、度々口にするのが「感謝」「縁」「恩返し」「奉仕」という言葉です。そもそも、「もち吉」の本社工場がある土地も、地元の方から縁あって譲り受けたもの。この土地は地下に良質で豊かな天然水の水源を持ち、日々湧き出す20000トンの水は、「もち吉」の商品製造に使われるだけでなく、「力水」という名前で販売もされています。土俵際で力士が使うお清めの水と同じ名前という縁もあり、現在、もち吉の「力水」は相撲の全場所で力水として使われているそうです。



「力水」がつかない大相撲との縁。社内には日本相撲協会からもらった「木戸御免」（木戸銭なしで自由に入出入りしてよいという証）が。



「いろいろな縁に恵まれたおかげで、直方という地で商売をさせてもらっている。この縁に感謝し、地域の皆さまに奉仕し、恩返しをする。それが『もち吉』の企業としての役割だと思っています」。そう語る森田社長は、現在、本社工場のある直方市下境一帯の開発にも精力的に取り組んでいます。世界最古の目撃記録をもつ隕石が奉納される須賀神社と、工場裏手

## 生まれ育った土地に 感謝の想いで恩返しを



(写真右)地元の人々が参拝しやすいようにと参道が整備されたばかりの須賀神社。(左)以前は小さな祠だったという薬師堂。周辺には新しい道路も整備されています。



### Company profile

株式会社もち吉

【創業】1929年

【住所】福岡県直方市下境2400番地  
字餅米 もちだんご村 餅乃神社前

【ホームページ】

<http://www.mochikichi.co.jp>



「工場周辺の開発ではパートナーとして今後ますますの協力を期待しています」。右から「もち吉」森田長吉代表取締役社長と北九州銀行 小野哲取締役 本店営業部長。

の山中にひっそりと存在していた薬師堂（通称・開運地蔵）を整備。いずれは渡橋で「もち吉」の工場と開運地蔵を結び、観光スポットにする予定なのだとか。縁を大切にし、地元を愛する森田社長のアイデアと行動力は留まるところを知りません。